

---

## 第 33 回日本保健福祉学会学術集会

# 生きづらさを抱える人たちを支える保健福祉学

---

### 1. 開催要領

開催日：2020 年 10 月 31 日(土)

会 場：オンラインでの開催

※新型コロナウイルス感染拡大の防止に配慮し、オンラインでの開催といたしました。

大会長：渡辺裕一（武蔵野大学人間科学部社会福祉学科 教授）

### 2. 大会テーマ

#### 「生きづらさを抱える人たちを支える保健福祉学」

自殺は個人の問題ではなく、社会全体として取り組むべき課題です。また、自殺は何か一つの要因ではなく、複数の要因が複雑に絡み合って起こる事象です。一つの学問領域だけでなく、分野を超えて、学際・学融合的に自殺予防に取り組むことが重要です。近年、わが国の自殺者数は減少傾向にあります。それでも G7 の中では日本は自殺が最も多い国です。我が国の 15 歳～39 歳の死因の第一は自殺です。

更に自殺未遂者は、自殺で亡くなる人の数の 10 倍、20 倍いるともいわれています。また、自殺が起きると、家族や友人、近親者など、少なくとも 5 人が強い心理的な影響を受けるといわれています。

生きづらい状態にある人が声をあげ、共に支え合える社会にならなければ、そして誰かが生きづらさを抱え続ける社会を変えなければ、再び誰かが自ら命を絶ち、周囲に傷つく人も増えることとなります。それは、どこかの誰かではなく、何かの理由によって生きづらさを抱えた私たちの大切な家族かもしれません、友達かもしれません、同僚かもしれません、私たち自身かもしれません。

今こそ、学際・学融合的な視点から、保健福祉に関わる研究者や専門職が力を合わせて自殺予防の問題に取り組むべきです。第 33 回学術集会では、「生きづらさを抱える人たちを支える保健福祉学」を大会テーマに、基調講演・シンポジウムその他、モーニングセッション（検討中）、口頭発表等を通して、参加者と一緒に、誰もが生きたいと思える社会づくりに取り組みたいと思います。

### 3. プログラム

以下のプログラムを予定していますが、今後の準備状況により、変更の可能性があります。詳しくは近日中に開設する学術集会ホームページにてご確認ください。

- モーニングセッション  
「自殺予防の基本を学び合うワークショップ」(仮) ※ 詳細検討中
- 基調講演  
「安全な居場所と自殺予防」(仮)  
竹島正先生 (川崎市精神保健福祉センター 所長)
- シンポジウム (公開)  
「生きやすい社会の実現に向けて一地域における包括的なケアから考える自殺予防」(仮)  
座長：福島喜代子 先生 (ルーテル学院大学総合人間学部 教授)  
コメンテーター：竹島正 先生 (川崎市精神保健福祉センター 所長)  
シンポジスト：現在調整中
- 一般演題 (口頭発表)  
※オンラインでのリアルタイム双方向型口頭発表を予定しています。

※ 近日中に学術集会ホームページを開設し、学会ホームページにリンクを設置しますので、ご確認ください。

※ 新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、学術集会の実施方法を大幅に変更する関係で、ご連絡が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。